

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第5回理事会 開催日：12月17日。出席者：石原会長ほか 39名。

1. 次期役員・名誉会員候補選考委員会委員委嘱の件
委員長：石原会長，委員：川合・白松各副会長，佐野・作井・小林・荒木・武田・松下各前会長，坂尾編集・栗田企画・加藤研究各委員長，伊木共研幹事長，木下専務理事。

上記の通り委嘱を決定した。

2. 産学連携促進検討WG報告の取扱いについて

前々回の理事会でWGの提言が報告されたが，さらに審議を加えた結果報告がなされた。要点は下記の通りである。

(1) 産学間の情報交換の強化につき考慮を払う。研究委調査小委の調査結果につき若手研究者が公開討論を実施することを考慮。

(2) テーマ公募による研究推進方策についてはテーマの範囲は鉄鋼及び関連する範囲とし，特基研で取り上げるテーマは予算措置を講ずる必要がある。

企 画 委 員 会

第6回企画委員会 開催日：12月5日。出席者：栗田委員長，ほか 22名。

1. 昭和 61 年度予算案について

昭和61年度第二次予算案について報告がなされたが，収支共 930,104 千円となり維持会費の増は0となった。さらに数字をつめて次回企画委員会に最終予算案を提出する予定である。

2. 国際交流委員会報告

国際交流委員会ではかねて二国間シンポジウムのありかたにつき検討していたが下記の通り決定した旨報告。

(1) 第5回日本・チェコスロバキア合同シンポジウム

開催時期 1986 年 9 月上旬 (東京)

(2) 日本・ノルディック諸国シンポジウム

開催時期 1986 年 11 月 10~20 日 (東京)

(3) 第7回日本・ドイツセミナー

開催時期 1987 年 4 月下旬 (ドイツ)

研 究 委 員 会

第4回研究委員会 開催日：11月15日。出席者：加藤委員長，ほか 22名。

1. 特定基礎研究会新規部会の計画審議

(1) 鉄鋼材料の相界面・結晶粒界の設計と制御部会
一東大・石田洋一部会長

(2) 電磁気冶金の基礎研究部会一名大・浅井滋生部会長

2. 産学連携促進委員会答申について

3. その他

編 集 委 員 会

第9回和文会誌分科会 開催日：12月12日。出席者：菊池幹事，ほか 26名。

1. 16件の論文審査報告がなされ，掲載決定6件，照会后掲載可5件，返却3件，その他2件であった。

第9回欧文会誌分科会 開催日：12月6日。出席者：加藤主査，ほか 21名。

1. 21件の原稿につき審査報告がなされ，掲載可2件，照会后掲載可2件，修正依頼15件，返却2件であった。また，15件の New Technology について審査報告がなされ，掲載可1件，修正依頼14件であった。

共 同 研 究 会

第92回製鋼部会 開催日：11月7~8日。開催地：神鋼・神戸。出席者：甲谷部会長，ほか 121名。

1. 特別講演「神戸製鋼所における製鋼技術の現状」
(株)神戸製鋼所・神戸製鉄所・製鋼部長 塩飽潔氏

2. 研究発表

(1) 重点テーマ「連铸操業における機械化・自動化技術」

品質安定化，労働負荷軽減などの観点から6件の発表があり座長玉寺氏(新日鉄・君津)のもとパネルディスカッションを行なった。

(2) 自由テーマ

連铸操業関係の発表6件

溶銑予備処理関係の発表3件

転炉操業その他の発表5件

鋼 板 部 会

第61回分塊分科会 開催日：11月28~29日。開催地：新日鉄・八幡。出席者：吉田主査，ほか 92名。

1. 議題審議

(1) 議題Ⅰ・操業調査表

条部門は前回に比して大きな変化はなかったが，板部門の処理量の減少傾向がさらに強くなった。

(2) 議題Ⅱ・共通議題

条部門「ロール原単位」：処理品種の多様化への努力が目立った。

板部門「要員配置と合理化計画」：連铸化，直送化を前提とする合理化策に関する報告が多かった。

(3) 議題Ⅲ・自由議題 条部門10件，板部門5件の発表があった。

2. 特別講演「当所における製鋼・分塊部門の現状について」新日鉄・八幡・製鋼部長 森玉直徳氏

3. 工場見学 新日鉄・八幡製鉄所 製鋼工場，分塊工場

第 60 回厚板分科会 開催日：60年11月14～15日。開催地：住金・和歌山。出席者：佐々木部会長，ほか 123 名。

1. 特別講演「厚板の現状と将来—日本の技術戦略はいかにあるべきか」佐々木部会長
2. グループ別討議
 - (1) スタッフグループテーマ「直行率」
成品の倉庫への直行率を向上させるためその管理指標を設け、その影響因子の現状と対策について討議した。
 - (2) 作業長グループテーマ「直行率向上の事例」発表件数 13 件
3. 工場見学 住金・和歌山製鉄所

第 42 回コールドストリップ分科会 開催日：12月5～6日。開催地：川鉄・千葉。出席者：浅村主査，ほか 132 名。

1. 操業状況調査（調査期間60年4～9月）の報告
2. 各社の工場操業（生産量，設備改造，安全等）報告
3. 共通議題
「品質管理について」
 - (1) アンケート結果報告
 - (2) 各社事例発表
 Total 15 件
 内 {連続焼鈍関連 4 件
品質情報解析関連 4 件}

第 45 回鋼管部会 開催日：12月5～6日。開催地：新日鉄・君津，吾嬭・千葉。出席者：森部会長，ほか 155 名。

1. 共通議題「鋼管の物流管理について」（新日鉄・君津）
2. 特別講演 2 件
 - (1) ロボット技術の動向と将来展望（日立製・機械研）
 - (2) 鉄鋼業におけるロボット応用事例紹介（日立製・日立工場）
3. 自由議題 3 件
4. 継目無鋼管分科会報告
5. 工場見学 新日鉄・君津 UO工場
吾嬭・千葉 製管工場

第 77 回熱経済技術部会 開催日：11月28～29日。開催地 鋼管・京浜。出席者：樋渡部会長，ほか 126 名。

1. 研究議題「京浜製鉄所の省エネルギー」（鋼管・京浜）
2. 59年度エネルギーバランスまとめ報告
(日新) (大同)
3. 統一議題：小委員会活動報告「模型理論とスケールアップ」
4. 自由議題 13件
5. 自由討論 11件
6. 工場見学 鋼管・京浜 製鋼工場その他

高級ラインパイプ共同研究委員会

開催日：12月4日。出席者：合田委員長，ほか 13 名。

1. BGC における HIC テストについて
HIC 分科会報告としてテスト状況および今後の計画について説明があり討議を行なった。また業務分科会からテスト費用について報告があり審議を行なった。
2. YR 研究について
BT 分科会より YR 研究の今後の計画について説明があり討議を行なった。
3. その他
対外発表の予定など

鉄鋼技術情報センター

第 29 回図書資料委員会 開催日：12月13日。出席者：岩崎委員長，ほか 15 名。

1. 前回議事録の確認
2. 各種事業の経過報告等
 - (1) 鉄共研資料のマイクロ化，及び利用システム
 - (2) 「鉄と鋼」のマイクロ化
 - (3) BISITS Translation
 - (4) 図書資料担当女性社員研修会 (W.L.S)
 - (5) プロシーディングス
3. 境界領域の図書，雑誌
4. その他

鉄鋼基礎共同研究会

第 13 回鉄鋼の環境強度部会 開催日：11月22日。出席者：駒井部会長，ほか 25 名。

1. 鉄鋼の海洋環境破面写真集 (Vol 1) 昭和60年9月出版の販売促進
2. 来年度の部会活動予定の確認
3. 共通試験結果報告 発表 17 件

設備技術部会

第 33 回圧延設備分科会 開催日：12月12～13日。開催地：神鋼・神戸。出席者：緒方部会長，三科主査，ほか 153 名。

1. 共通議題 I
「潤滑管理」
 - (1) 専門委員会でアンケートを集約した結果および解析の報告
 - (2) 各社の事例発表 5 件
2. 共通議題 II
「過負荷防止」に関する各社事例発表
Total 9 件
内 5 件がシャーピン関係
3. 自由議題
メーカーより 3 件報告

第 19 回電気設備分科会 開催日：11月28～29日。開催地：川鉄・水島。出席者：緒方部会長，舟木主査，ほか 127 名。

1. 共通テーマ

「電気機器の更新状況」に関し専門委員会でアンケートを集約した結果および解析の報告があつた。

2. 自由テーマ

遠方監視システムに関するテーマを中心に各社より12件の発表があつた。

原子力部会

第7・8・9・10回技術小委員会 開催日：10月28日～12月11日。出席者：鶴岡委員長，ほか10名。

会議事項

原子力産業会議から，日本原子力研究所が開発を推進している多目的高温ガス実験炉について鉄鋼側の将来の需要見通しについて見解を求められたのに応じ，鉄鋼側の意見を集約した。

特定基礎研究会

電磁気冶金の基礎研究部会 開催日：11月27日。出席者：浅井部会長，ほか15名。

1. 部会発足経緯と研究目的説明
2. 研究テーマ内容の説明

当面3グループ，12テーマにて推進し61年春以降，さらに2グループを追加の予定。

3. 部会運営について

高温強度研究委員会

第1回金材技研クリープデータシート連絡分科会

開催日：12月3日。出席者：田中主査，ほか8名。

1. 金材技研の第三期クリープデータシート試験計画についての討議
2. 金材技研のクリープデータシート試験の供試材の追加及び新供試材の選定について
3. 金材技研の「金属材料強度データベース開発計画」の紹介

会員名簿発行案内

この度，当協会では1985，86年版の会員名簿を発行いたしました。すでにご購入済みの会員も多くいらっしゃいますが，新規申込を下記により受け付けいたしますのでご案内申し上げます。

記

名簿の構成 定款，諸規程，役員および委員，歴代会長，名誉会員，賛助会員，維持会員，正会員，学生会員，外国会員，関連団体（会社，官公立機関大学等），表彰者，事務局

定 価 会 員 2,200円 別に送料 400円
非会員 6,200円 別に送料 400円
送金先 社団法人 日本鉄鋼協会
郵便振替口座 東京 7-193

問合せ先 日本鉄鋼協会 庶務課
(千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3階 TEL. 03-279-6021)

書 評

転位のダイナミクスと塑性

鈴木 平 編著

本書は物性科学における重要な諸問題について，基礎から説き起こして発展の現状までを記述することを目的とした教育的専門書シリーズである物性科学選書の一巻として最近出版されたものであり，学部高学年生，大学院生をはじめとする初学者のための教科書として著述されている。

内容は大きく3つに分けられている。まずfcc金属，合金の強度の原理的理解への道を開くことになった転位の運動力学的研究に関する実験的および理論的発展の経過が，結晶塑性論に対する全く新しい理論である転位の慣性モデルに至るまで，3章にわたって簡潔に記述されている。

次いで，bcc金属中の転位の運動が，bcc金属の大きなパイエルス力との関連において述べられている。また，パイエルス力の大きな結晶の別の例として，半導体結晶中の転位の運動についても1章が与えられている。

以上の章においては，複雑な現象の介入を避けるため低温度における降伏強度を主題に記述されているが，最後の3章は，金属，合金のクリープを中心にした高温変形の特徴および高温変形機構さらに金属とセラミックスの複合材料の高温変形機構について，転位の運動との関連において詳述されている。

編著者は東京大学名誉教授で，転位の運動論に関しては世界の第一人者であり，さらに共著者も本分野において数多くの実績を有している。また，各章ごとに多くの引用文献が掲載されているので，学生の教科書ばかりでなく，実務に携わる研究者にも有益な書である。

また，本選書は編著者の東京大学退官記念として計画されたものであることを付記しておく。（勝亦正昭）

A5判 259ページ 定価 4,200円

昭和60年9月 (株) 榮華房発行